

エイチワングループ  
環境報告書  
2020  
Environmental Report



# CONTENTS

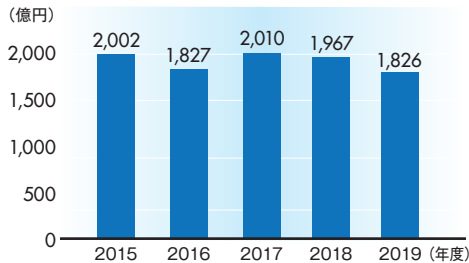
|  |   |
|--|---|
| 会社概要   | 1   |
| トップメッセージ   | 2   |
| 環境方針と環境マネジメント組織  | 3   |
| 環境目標と実績  | 4   |
| 環境に対する取り組み   | 5   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ISO14001:2015年版 更新審査</li> <li>■ 環境教育</li> <li>■ トップマネジメントとの関わり</li> </ul>                                   | 6   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 環境側面の抽出と管理</li> <li>■ 従業員を対象にした勉強会</li> <li>■ サプライチェーンでの取り組み</li> </ul>                                     |   |
| 国内の環境データ   | 7   |
| マテリアルフローと環境会計  | 8   |
| 環境保全活動   |   |
| <b>日本</b> ..... 9・10 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ エイチワンの森づくり</li> <li>■ 地域清掃活動</li> </ul>  | <b>タイ</b> ..... 12 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 植樹活動</li> </ul>                       |
| <b>アメリカ</b> ..... 11 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 苗木の配布</li> </ul>   | <b>インド</b> ..... 12 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 近隣の芝生の整備</li> </ul>                  |
| <b>カナダ</b> ..... 11 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 花の種の配布</li> </ul>   | <b>インドネシア</b> ..... 12 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 工場周辺の清掃活動</li> </ul>              |
| <b>中国</b> ..... 11 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域の清掃活動</li> </ul>   |   |
| 省エネ改善事例  |   |
| <b>日本</b> ..... 13 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ コンプレッサードレントラップの省エネ化</li> <li>■ 特異形状部品対応専用台車作成による運送の効率化</li> <li>■ コンプレッサーの最適化</li> </ul> | <b>タイ</b> ..... 14 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ エア漏れ特定によるエネルギーロスの改善</li> </ul>        |
| <b>中国</b> ..... 14 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 屋根への断熱塗装</li> </ul>  | <b>各国</b> ..... 14 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ LED化の推進</li> </ul>                    |
| 地域交流と社会貢献活動  |   |
| <b>日本</b> ..... 15 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ H-oneフェスティバル</li> <li>■ 新型コロナウイルス感染症防止のためのマスク寄贈</li> </ul>                               | <b>タイ</b> ..... 16 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 子供の日の交流</li> <li>■ 孤児院への寄付</li> </ul> |
| <b>アメリカ</b> ..... 15 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 工場見学会</li> </ul>   | <b>インド</b> ..... 16 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 衣服や靴の寄付活動</li> </ul>                 |
|  | <b>インドネシア</b> ..... 16 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 献血と寄付</li> </ul>                  |

## 会社概要

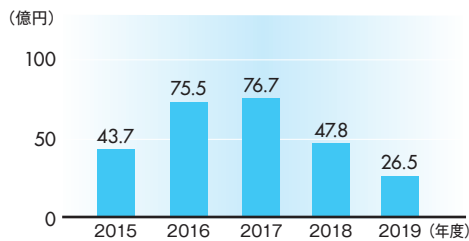
|       |  |  |
|-------|--|--|
| 会社名   | 株式会社エイチワン  |  |
| 設立    | 2006年(平成18年)4月1日   |  |
| 代表者   | 代表取締役社長執行役員 金田 敦   |  |
| 本社所在地 | 埼玉県さいたま市大宮区<br>桜木町一丁目11番地5   |  |
| 資本金   | 43億66百万円   |  |
| 従業員数  | 連結:7,339名<br>(単独:1,299名) (2020.3.31現在)   |  |
| 事業内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動車部品の製造及び販売</li> <li>● 金型溶接設備製造 等</li> </ul>   |  |
| 取引先   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本田技研工業株式会社</li> <li>● 三菱自動車工業株式会社</li> <li>● ダイハツ工業株式会社</li> <li>● 日野自動車株式会社 他</li> </ul> |  |

## 業績(連結)

### ● 売上収益



### ● 税引前利益



2015年度に係る連結財務諸表から国際財務報告基準(IFRS)を任意適用しています。

## 拠点一覧

### ● 国内拠点



亀山製作所(三重県)



亀山製作所 中津工場(大分県)



亀山製作所 湖南工場(滋賀県)



前橋製作所(群馬県)



前橋製作所 太田工場(群馬県)



郡山製作所(福島県)



開発技術センター(福島県)



機種開発センター(栃木県)



機種開発センター烏山(栃木県)



本社(埼玉県)

### ● 海外拠点

#### アメリカ



KTH Parts Industries, Inc.



Kalida Manufacturing, Inc.



KTH Leesburg Products, LLC.

#### カナダ



KTH Shelburne Manufacturing, Inc.



G-ONE AUTO PARTS DE MEXICO, S.A. DE C.V.

#### 中国



広州愛機汽车配件有限公司 (GH Auto Parts Industries Inc.)



清遠愛機汽车配件有限公司 (QH Auto Parts Industries Inc.)



武漢愛機汽车配件有限公司 (WH Auto Parts Industries Inc.)

#### タイ



H-ONE Parts(Thailand) Co.,Ltd.



H-ONE Parts Sriracha Co.,Ltd.



CNC D-TEX Co.,Ltd.

#### インド



H-ONE India PVT.,LTD.



PT. H-ONE KOGI PRIMA AUTO TECHNOLOGIES INDONESIA



株式会社エイチワン  
代表取締役社長執行役員

金田 敏

H-oneグループは事業活動を通じて企業価値を高め、持続可能な社会の実現に寄与することをめざし、サステナビリティの全体推進部門を中心に環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)のそれぞれに取り組んでいます。

環境領域では、当社の主力製品である自動車フレームや環境対応製品の技術開発に磨きをかけ、環境に優しい自動車や低燃費化に貢献していくことを事業と一体となり取り組んでいます。生産過程では電力を中心とした省エネに加え、2018年度からは事業所の水使用量を削減するために、水の効率利用にも着手しました。こうした取り組みをモノづくりの現場が主体となって行っており、着実に成果をあげています。また、2019年には国内5カ所目となる「エイチワンの森」を福島県に開設しました。

当社は国際標準規格ISO14001:2015に基づく環境マネジメントシステムを事業所単位で構築しています。環境組織体制の整備、環境教育の実施、内部監査員の育成、省エネ改善などを進めながらマネジメントシステム全体のレベル向上を図っています。

このような当社グループ、1年間の環境に対する取り組みを「環境報告書2020」としてまとめましたので、ご高覧いただき、当社グループの環境活動をよりご理解いただければ幸いです。

## H-oneフィロソフィー



**経営理念** 世界に貢献する企業に向かって  
「尊重 信頼 挑戦」  
そこから生まれる夢の実現

**社是** 私達は世界中のお客様の期待に応える  
魅力あふれる商品・サービスを提供する

## 中長期経営戦略

H-oneグループでは急速な変化に即応しながら、ゆるぎない成長を遂げていくために、2020年3月期に2030年を最終年とする長期ビジョン(以下、2030年VISION)を策定し、これと中期事業計画を当社グループの中長期的な経営戦略に位置付けております。

H-one Group 2030年VISION

# Be a Value Creator

「価値を創造すること」そして「価値ある製品」を  
発信/提供する企業グループになること

H-oneグループで働く一人ひとりが  
“新たな価値”を創造することで  
モビリティ社会の未来に貢献していきます

Corporate slogan

## Exceed expectations

思い描いているのは常に期待を超えること。  
H-oneグループに寄せられる多様なニーズに、  
私たちは期待を超える成果を創出し続けていくことで  
お応えしてまいります。



## H-oneグループ環境方針

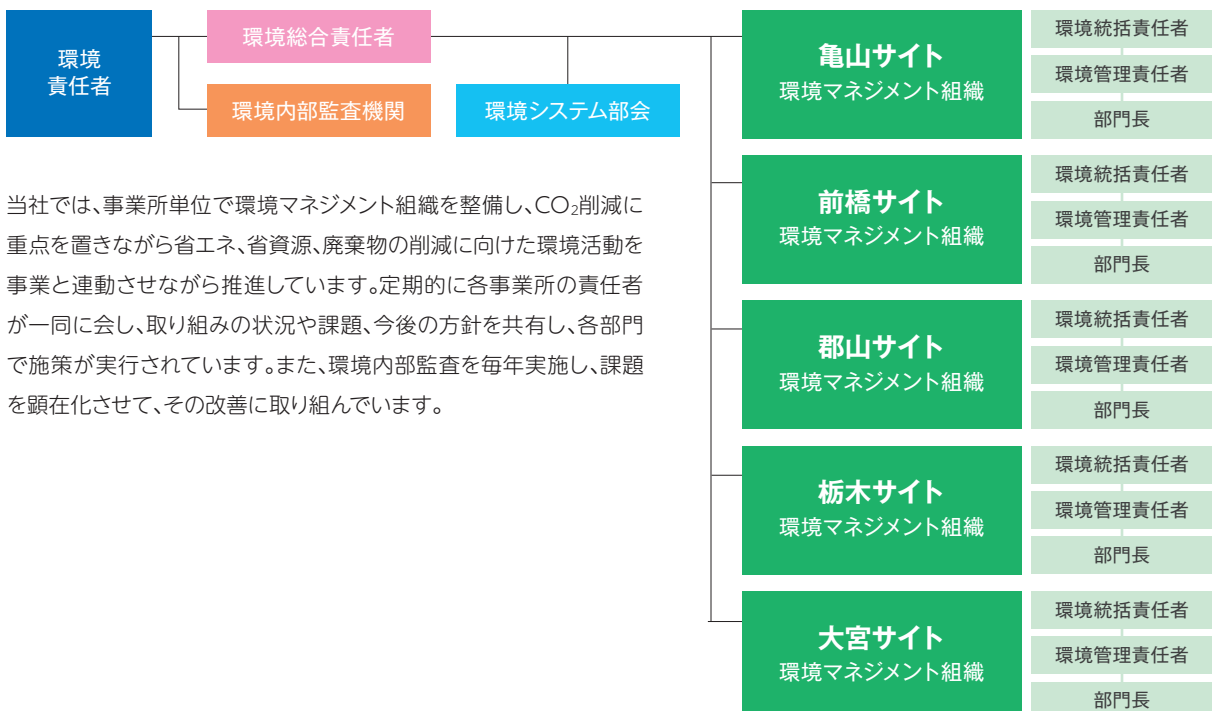
|      |   |
|------|---|
| 理念   | H-oneグループは経営理念に基づき、あらゆる事業活動において環境負荷低減に取り組むことで社会の持続可能な発展に貢献します。  |
| 行動指針 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 私たちは社会・顧客の環境ニーズを把握し、その期待を超える製品の開発・生産に取り組みます。</li> <li>2 私たちは製品ライフサイクルの各段階において資源・エネルギーの節減に努めます。</li> <li>3 当社グループの一人ひとりが地域特性を考慮した環境保全活動に取り組みます。</li> <li>4 私たちは法的要求事項及び個別に同意した基準を順守し、サプライチェーン及び社会の一員としてステークホルダーと協力し、環境課題の解決に向けた活動に取り組みます。</li> <li>5 私たちは事業活動が環境に及ぼす影響を正しく認識し、環境マネジメントシステムに則り推進体制を最適化し、環境目標に取り組むことを通じて環境リスクの継続的な低減に取り組みます。</li> </ol> |

## 新しい「H-oneグループ環境方針」の制定について

企業活動を行う上で、環境に配慮し、社会的責任を果たしていくことは今や当たり前のことになっております。

地球環境問題は世界規模で年々深刻化しており、H-oneグループでは、将来に向けて「環境問題」にグループとして対処していくことを明確に示すため、この度「H-oneグループ環境方針」を新たに制定しました。

## 環境マネジメント組織





## 2019年度の実績

当社では、以下の項目について国内の全事業所で共通の環境目標を設定し、環境負荷低減に向けた取り組みを推進しています。

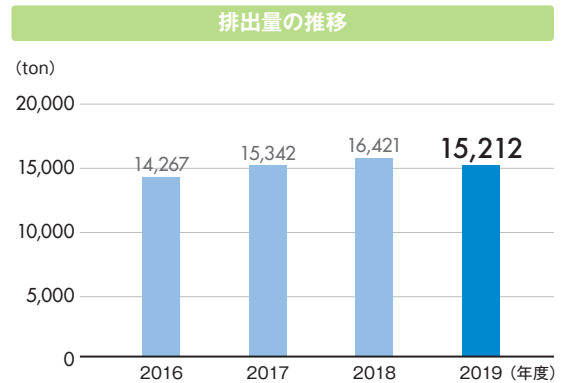
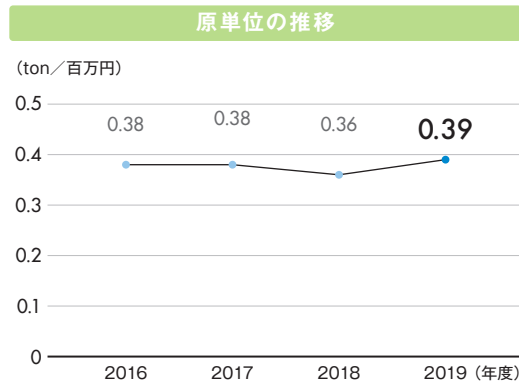
| 項目  | 2019年度                   |   |                           | 2020年度目標                 |
|---|--------------------------|---|---------------------------|--------------------------|
|   | 目標                       | 施策の一例   | 実績                        |                          |
| 省エネルギー活動<br>生産活動に使用するエネルギー（電気、ガス、ガソリン、灯油等）の削減 | 2016年度比<br>原単位<br>3.0%削減 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 工程改善による稼働時間の短縮</li> <li>● 照明(工場・事務所)のLED化</li> <li>● エアコンプレッサー運転制御最適化</li> </ul> | 2016年度比<br>原単位<br>6.6%増加  | 2019年度比<br>原単位<br>1.0%削減 |
|   | 2016年度比<br>排出量<br>3.0%削減 |   | 2016年度比<br>排出量<br>3.2%増加  | 2019年度比<br>排出量<br>1.0%削減 |
| 廃棄物の削減<br>事業所から発生する廃棄物の削減                     | 2016年度比<br>発生量<br>3.0%削減 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 荷姿変更</li> <li>● 廃棄物の分別徹底による発生量の削減</li> <li>● 焼入水の交換頻度削減</li> </ul>               | 2016年度比<br>発生量<br>3.2%増加  | 2019年度比<br>発生量<br>1.0%削減 |
| 水使用量の削減<br>事業所で使用する水使用量の削減                    | 2016年度比<br>原単位<br>2.0%削減 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● クーリングタワー定期供給水削減</li> <li>● 止水栓の調整による水量の制限</li> </ul>                             | 2016年度比<br>原単位<br>24.8%削減 | 2019年度比<br>原単位<br>1.0%削減 |

※集計期間：2019年4月～2020年3月 国内全事業所の集計値。

※原単位とは生産量などの特定の単位あたりの排出量です。当社では分母にエネルギー消費に関連性の高い売上収益を使用しています。

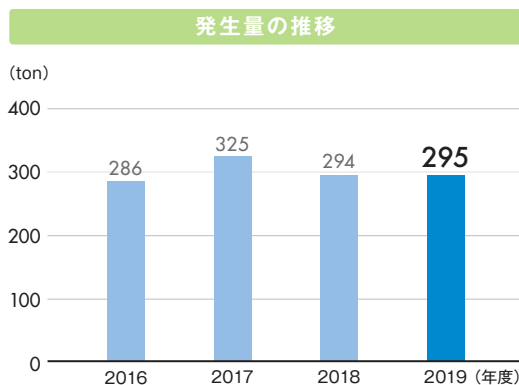
原単位は減少するほど効率的な活動をしているといえます。

## 生産活動によるCO<sub>2</sub>排出量

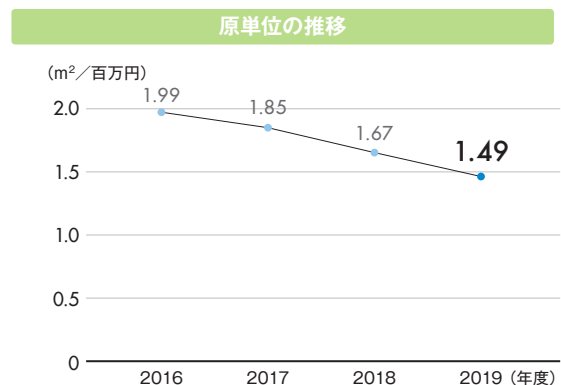


※2019年度に原単位分母の対象範囲を変更したため、過年度分は新たな対象範囲に基づく値を表示しております。

## 廃棄物発生量



## 水使用量



## ISO14001:2015年版 更新審査

当社は国内全事業所でISO14001の認証を取得しています。  
 2019年度にマネジメントシステム認証機関を一般財団法人日本自動車研究所 認証センター (JARI-RB)に移転し、更新審査を受審し認証が継続されました。  
 更新審査では前年に引き続き不適合はありませんでしたが7件の観察事項を受け、全部門で再発防止対策を完了しています。



文書、記録の確認



現場での管理状況の確認



ISO14001認証書

## 環境教育

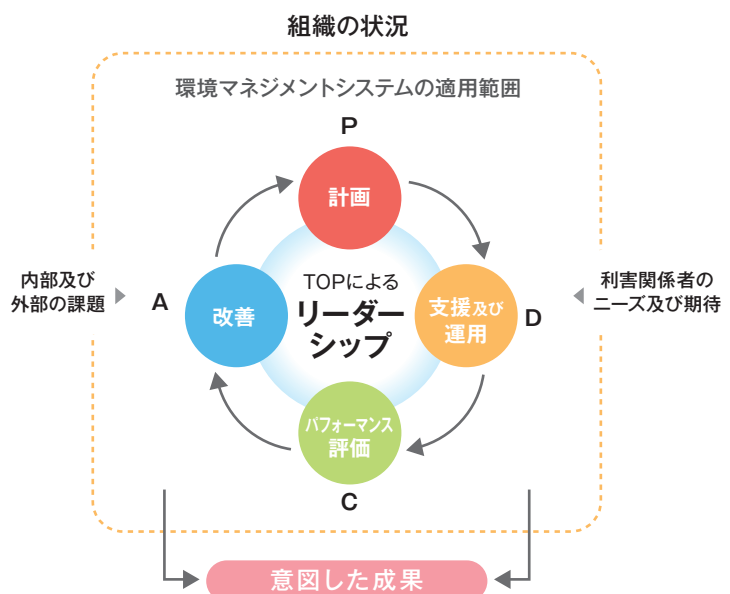
環境マネジメントシステムの適切な運用を図るためには実務者の理解が必要不可欠です。ISO14001審査員の要員認証機関であるCEAR(現JRCA)が承認する審査員試験に合格した従業員が中心となって環境教育を行い、マネジメントシステムの定着を図っています。2019年度も新たに1名がCEAR(現JRCA)承認の審査員試験に合格しました。

### ● 2019年度に実施した環境教育の一例

| 項目            | 受講対象者 | 受講人数 | 内容               |
|---------------|-------|------|------------------|
| EMS部門長向け専門研修  | 部門長   | 5名   | EMS規程に基づいた各部門の運用 |
| 内部監査員レベルアップ研修 | 内部監査員 | 16名  | 規格要求事項のポイント、監査技量 |
| 階層別研修         | 昇格者   | 56名  | 各階層で求められる環境知識    |

## トップマネジメントとの関わり

環境に対する取り組み内容や活動実績についてマネジメントレビュー(経営層による見直し)を毎年実施しています。また国内事業所の環境管理責任者が集まり各サイトの活動について意見を交わし議論する全社会議を年2回開催。環境目標に対する進捗状況の確認や優れた取り組みの共有化、今後の戦略の議論など、事業との連動性を高めるように推進しています。



## ▶ 環境側面の抽出と管理

環境に影響を与える環境側面の管理は環境マネジメントシステムの運用において特に重要なものです。当社では部門単位で定期的に環境側面の抽出・評価を行い、特に環境に大きな影響を与えるものを著しい環境側面として特定し、重点管理の対象としています。環境影響を最小限に抑え、正しい取り組みを推進していくにはライフサイクルの観点から広い視野で業務全体を評価し環境側面を特定する必要があります。

そこで、2020年2月に環境側面特定に関するルールを改定し、その結果80件(昨年60件)と昨年よりも多くの環境側面を抽出することが出来ました。

### 〈著しい環境側面の分類〉

#### マイナスの著しい環境側面

| 全社の著しい環境側面     | 環境影響             | 件数 |
|----------------|------------------|----|
| 電力の消費          | エネルギーの消費 / 地球温暖化 | 22 |
| 工場内騒音・振動の発生    | 騒音・振動            | 6  |
| 産業廃棄物、一般廃棄物の排出 | 廃棄物発生            | 4  |
| 排気ガスの排出        | 大気汚染             | 3  |
| 資源の使用          | 廃棄物発生            | 1  |
| 油の流出           | 水質汚濁/土壌汚染        | 1  |
| 水の使用           | 資源の枯渇/水の使用       | 1  |

#### プラスの著しい環境側面

| 全社の著しい環境側面      | 環境影響   | 件数 |
|-----------------|--|----|
| 生産活動の効率改善       | 資源の節約 / エネルギーの節約 / 廃棄物の減少 / 大気汚染の減少 / 廃棄物の減少   | 26 |
| 環境負荷低減に関する管理強化  | エネルギーの節約 / 騒音・振動の軽減 / 廃棄物の減少                   | 5  |
| 輸送ルート合理化        | 大気汚染の減少 / エネルギーの節約                             | 4  |
| 環境意識向上のための教育、活動 | 地球温暖化防止 / 水質汚濁防止 / 土壌汚染防止 / 環境意識の向上 / エネルギーの節約 | 4  |
| 環境配慮設計          | エネルギーの節約                                       | 2  |
| 高効率設備への転換       | エネルギーの節約                                       | 1  |

## ▶ 従業員を対象にした勉強会の開催

地球温暖化による問題や自社で取り組んでいる環境施策や環境目標を正しく理解するために必要な知識を集約した専用教材を作成し、各職場単位で全員が受講する環境勉強会を2017年度から毎年実施しています。



## ▶ サプライチェーンでの取り組み

当社は従来からお取引先と共同でCO<sub>2</sub>排出削減をめざして省エネへの取り組みを推進しています。2016年度からCSR全体に領域を広げ、サプライチェーンで取り組みを強化しています。2019年度はCSR説明会を4拠点で開催し52社のお取引先に参加いただき、取り組みの必要性や目標を共有しています。今後さらなる定着に向け、お取引先と連携して取り組んでいきます。





| 亀山製作所        |           | 2018年度  | 2019年度  |
|--------------|-----------|---------|---------|
| エネルギー<br>使用量 | 電力 (MWh)  | 12,530  | 12,628  |
|              | LPG (kg)  | 167,627 | 166,109 |
|              | 軽油 (kℓ)   | 7.8     | 9.7     |
|              | ガソリン (kℓ) | 12.8    | 15.6    |
|              | 灯油 (kℓ)   | 1.7     | 1.1     |
| 廃棄物発生量       | (ton)     | 64      | 72      |

| 郡山製作所／開発技術センター |           | 2018年度  | 2019年度  |
|----------------|-----------|---------|---------|
| エネルギー<br>使用量   | 電力 (MWh)  | 10,278  | 9,030   |
|                | LPG (kg)  | 123,215 | 163,587 |
|                | 軽油 (kℓ)   | —       | —       |
|                | ガソリン (kℓ) | 12.2    | 11      |
|                | 灯油 (kℓ)   | 34.9    | 30      |
| 廃棄物発生量         | (ton)     | 80      | 67      |

| 亀山製作所 湖南工場   |           | 2018年度 | 2019年度 |
|--------------|-----------|--------|--------|
| エネルギー<br>使用量 | 電力 (MWh)  | 653    | 785    |
|              | LPG (kg)  | 5,220  | 4,860  |
|              | 軽油 (kℓ)   | —      | —      |
|              | ガソリン (kℓ) | —      | —      |
|              | 灯油 (kℓ)   | —      | —      |
| 廃棄物発生量       | (ton)     | 2.7    | 1      |

| 機種開発センター     |           | 2018年度 | 2019年度 |
|--------------|-----------|--------|--------|
| エネルギー<br>使用量 | 電力 (MWh)  | 165    | 160    |
|              | LPG (kg)  | 22     | 19     |
|              | 軽油 (kℓ)   | —      | —      |
|              | ガソリン (kℓ) | 6.2    | 5.3    |
|              | 灯油 (kℓ)   | —      | —      |
| 廃棄物発生量       | (ton)     | 0.5    | 0.5    |

| 亀山製作所 中津工場   |           | 2018年度 | 2019年度 |
|--------------|-----------|--------|--------|
| エネルギー<br>使用量 | 電力 (MWh)  | 284    | 313    |
|              | LPG (kg)  | 7,191  | 7,776  |
|              | 軽油 (kℓ)   | —      | —      |
|              | ガソリン (kℓ) | —      | —      |
|              | 灯油 (kℓ)   | —      | —      |
| 廃棄物発生量       | (ton)     | 0.3    | 0      |

| 機種開発センター 鳥山  |           | 2018年度 | 2019年度 |
|--------------|-----------|--------|--------|
| エネルギー<br>使用量 | 電力 (MWh)  | 452    | 433    |
|              | LPG (kg)  | 427    | 516    |
|              | 軽油 (kℓ)   | —      | —      |
|              | ガソリン (kℓ) | 4.4    | 3.2    |
|              | 灯油 (kℓ)   | 2.9    | 4.8    |
| 廃棄物発生量       | (ton)     | 8.6    | 6.8    |

| 前橋製作所        |           | 2018年度 | 2019年度 |
|--------------|-----------|--------|--------|
| エネルギー<br>使用量 | 電力 (MWh)  | 7,100  | 5,646  |
|              | LPG (kg)  | 66,906 | 51,278 |
|              | 軽油 (kℓ)   | 3.2    | 2.6    |
|              | ガソリン (kℓ) | 18.9   | 18.9   |
|              | 灯油 (kℓ)   | 6.5    | 3.4    |
| 廃棄物発生量       | (ton)     | 66     | 74     |

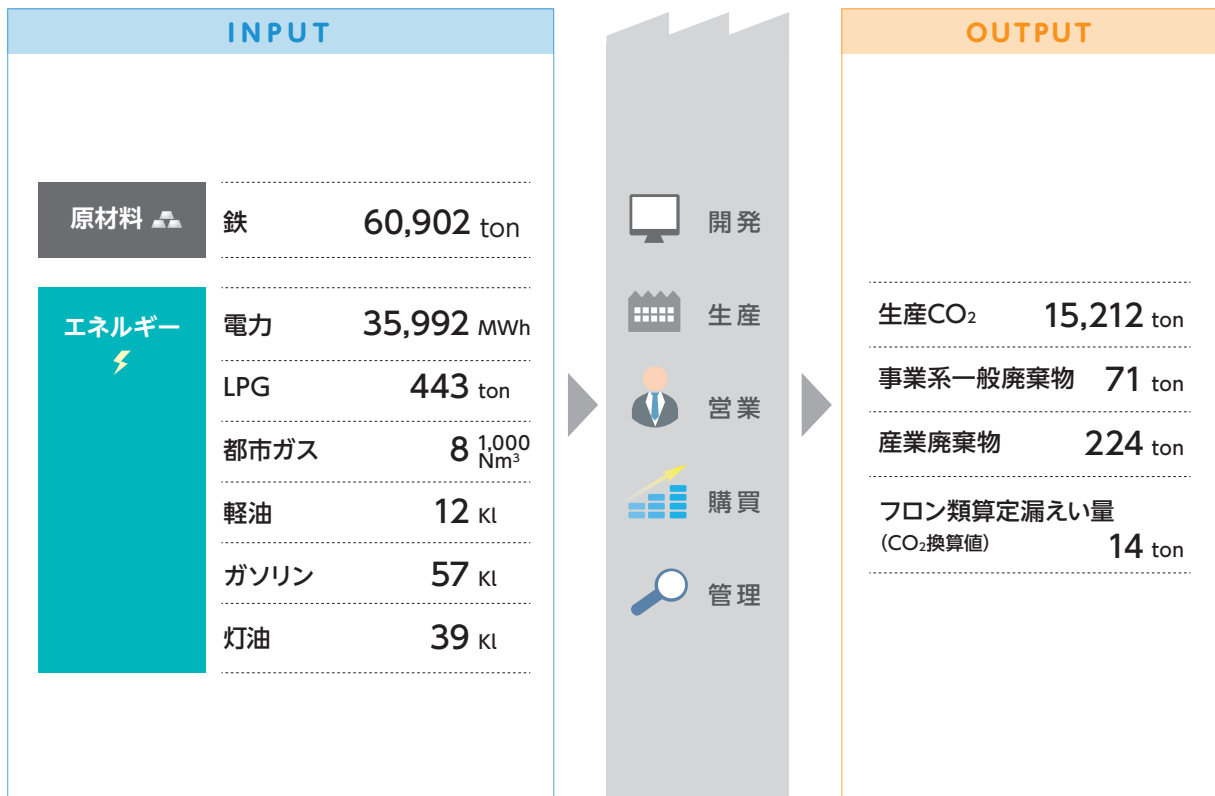
| 本社           |                              | 2018年度 | 2019年度 |
|--------------|------------------------------|--------|--------|
| エネルギー<br>使用量 | 電力 (MWh)                     | 122    | 106    |
|              | 都市ガス (1,000Nm <sup>3</sup> ) | 7.8    | 7.7    |
|              | 軽油 (kℓ)                      | —      | —      |
|              | ガソリン (kℓ)                    | 0.8    | 0.9    |
|              | 灯油 (kℓ)                      | —      | —      |
| 廃棄物発生量       | (ton)                        | 3.3    | 3.3    |

| 前橋製作所 太田工場   |           | 2018年度 | 2019年度 |
|--------------|-----------|--------|--------|
| エネルギー<br>使用量 | 電力 (MWh)  | 7,731  | 6,891  |
|              | LPG (kg)  | 61,291 | 48,664 |
|              | 軽油 (kℓ)   | —      | —      |
|              | ガソリン (kℓ) | 1.8    | 1.6    |
|              | 灯油 (kℓ)   | 0      | 0      |
| 廃棄物発生量       | (ton)     | 68     | 67     |

※集計期間:2019年4月～2020年3月

## マテリアルフロー

当社では、事業活動において、どれだけの資源・エネルギーを使用し、CO<sub>2</sub>や廃棄物などを発生させているか可能な限り把握を行い、対策につなげています。



※対象期間:2019年4月~2020年3月  
 ※電力:CO<sub>2</sub>排出係数は0.378t-CO<sub>2</sub>/MWhを使用

## 環境会計

当社では、事業活動において公害防止や環境保全等のために使用した投資及び費用について定量的に把握する仕組みを整備し、2012年度から運用しています。

| 分類                | 主な投資及び費用の内容                    | 投資(百万円) |        | 費用(百万円) |        |
|-------------------|--------------------------------|---------|--------|---------|--------|
|                   |                                | 2018年度  | 2019年度 | 2018年度  | 2019年度 |
| 事業<br>エリア内<br>コスト | 公害防止コスト                        | —       | —      | 4.7     | 5.0    |
|                   | 地球環境保全コスト                      | 36.1    | 45.7   | 1.9     | 0.3    |
|                   | 資源循環コスト                        | —       | —      | 10.2    | 10.8   |
| 管理活動コスト           | 環境マネジメントシステムの運用整備、環境労務費等       | —       | —      | 30.9    | 58.8   |
| 研究開発コスト           | 環境保全に資する製品等の研究開発コスト            | —       | —      | 21.0    | 29.9   |
| 社会活動コスト           | 事業活動とは関係のない社会活動における環境保全のためのコスト | —       | —      | 3.0     | 2.8    |
| 合計                |                                | 36.1    | 45.7   | 71.7    | 107.6  |

※投資及び費用は、環境保全のために要したコストを可能な限り定量的に把握し、集計した金額です。  
 ※集計期間:2019年4月~2020年3月

H-oneグループでは「地球環境の保全」に積極的に取り組むことを基本理念としており、国内、海外の各拠点で環境保全活動を実施しています。

## 日本

### ■ エイチワンの森づくり

生態系によるCO<sub>2</sub>吸収へ促進するため、国内各事業所で「エイチワンの森づくり」として、枝打ち、間伐、植樹、下草刈りなどの森林整備を行っています。これまでは国内4ヶ所で実施してきましたが、2019年は新たに5ヶ所目となる福島県福島市での森づくり活動がスタートし、より一層活動が活発になりました。

活動には従業員及びその家族が参加しており、森林保全の大切さを学ぶ機会として、今後も活動を継続していきます。



## 福島県

面積  
1.05ヘクタール

活動場所  
福島県福島市佐原

主な活動内容  
間伐、枝打ち等

活動期間  
2019年11月～



## 埼玉県



面積  
2.70ヘクタール

活動場所  
埼玉県秩父郡横瀬町

主な活動内容  
間伐、枝打ち等

活動期間  
2017年4月～  
(2013年11月～2017年3月は毛呂山町で活動を実施)



## 群馬県



面積  
1.40ヘクタール

活動場所  
群馬県高崎市箕郷町

主な活動内容  
間伐、枝打ち、下刈り等

活動期間  
2014年10月～





日本

■ エイチワンの森づくり

三重県

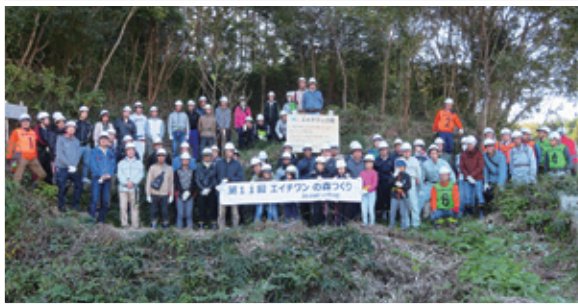


面積  
2.48ヘクタール

活動場所  
三重県亀山市三寺町

主な活動内容  
竹林整備、間伐等

活動期間 2018年11月～



栃木県



面積  
0.92ヘクタール

活動場所  
栃木県矢板市長井

主な活動内容  
植栽、下狩等

活動期間 2014年5月～



■ 地域清掃活動

福島県

美しいまち、美しい自然を保全し快適な生活環境を築くとともに、ごみのポイ捨て防止と資源再利用の意識高揚を図るという趣旨のもと、清掃活動にも積極的に取り組んでいます。

福島県郡山市で行われている市民総ぐるみ「クリーンこおりやま運動」に毎年参加し、地元町内会の皆さんと道路や公園等の公共施設及びその周辺の清掃活動を行っています。

● クリーンこおりやま運動



## アメリカ

### ■ 苗木の配布

KTH社とKMI社は、家族で自宅に苗木を植え、育てることを通じて緑を保全する大切さを感じてもらいたいという思いから、およそ1,800本の苗木を従業員や地域住民に配布しました。この活動は、毎年アメリカの「緑の日」にちなんで行われ、参加した皆さんは思い思いに選んだ苗木を持ち帰りました。



## カナダ

### ■ 花の種の配布

KSM社は、4月22日の「アースデイ」(地球の日) ※にちなみ、例年4月中旬の1週間を「KSM Earth Week」と名付けて、従業員の環境意識向上を目的とした活動を行っています。今年の見取りは、ヒナギクやヒマワリなどの種を従業員に配り、育ててもらうことを通じて環境意識の向上を図りました。

※アースデイ(Earth Day)とは、地球環境について考える日として提案された記念日で、4月22日のアースデイが広く知られています。



## 中国

### ■ 地域の清掃活動

中国では、従業員の環境意識の向上と周辺地域の環境美化を目的に1年に2回、会社周辺の清掃活動を実施しています。





## タイ

### ■ 植樹活動

HPT社では、2019年6月に従業員とその家族合わせて250名がタイ中部プラーチーンブリー県で植樹活動を行い、約2,000本を植樹。HPS社では、2019年9月に従業員とその家族合わせて80名が、同じくタイ中部シンブリー県で約300本の植樹を行いました。植樹活動を継続することで森林を育て、雨季に頻繁に発生する洪水を防ぐとともに、地球温暖化防止のため今後も両社は活動を続けていく予定です。



## インド

### ■ 近隣の芝生の整備

HIL社では、2019年の5月から6月にかけて同社近隣の芝生の植え替えや清掃など行いました。地域での継続的な環境保全活動を通じ、従業員の環境意識の向上を図っています。



## インドネシア

### ■ 工場周辺の清掃活動

HK-PATI社では、従業員が地域住民の皆さんと協力して、会社周辺の道路や公園、公共施設に捨てられたごみや空き缶を拾うなどして、街のクリーン活動に協力しています。



当社では環境負荷の低減を目的にライフサイクルの視点で開発設計・生産・物流過程でそれぞれ省エネ化に取り組んでいます。国内外における主な省エネ事例を紹介します。

## 日本

### ■ コンプレッサードレントラップの省エネ化 亀山製作所

亀山製作所では、コンプレッサードレントラップを従来のタイマー式からフロート式に変更しました。タイマー式の場合、ドレン水の量に関係なく1時間あたり3分間ドレントラップが稼働しドレン水を排出していましたが、フロート式に変更したことで、ドレン水が一定量たまってから排出することで稼働の無駄が無くなり、年間7,632kWhの削減効果がありました。

変更前



コンプレッサードレントラップ

変更後



コンプレッサードレントラップ

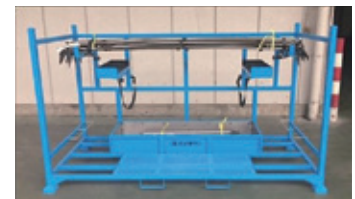
### ■ 特異形状部品対応専用台車作成による運送の効率化 前橋製作所

前橋製作所では、大型の特異形状部品を運送する際に、既存の台車には収まらないため、専用の特別便を手配しており運送効率に課題がありました。特異形状部品に合わせた専用の台車を作成し他製品との混載を可能にし、年間30回程度手配していた特別便を廃止することが出来ました。通常の運送ルートを使用することでCO<sub>2</sub>に換算すると年間2.5tを削減することが出来ました。

変更前



変更後



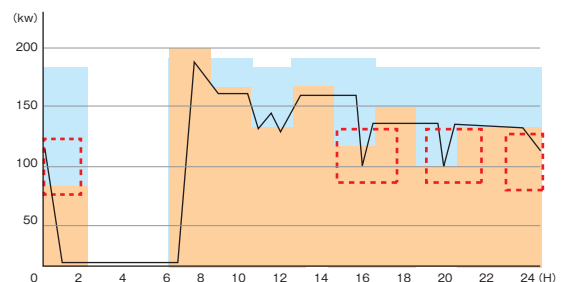
赤点線部分は部品が台車に収まらず、積み込み時に他の台車に干渉してしまい通常の運搬ができませんでしたが、専用台車を作成し他製品と混載可能になりました。

### ■ コンプレッサの最適化

#### ● 運転制御の最適化 亀山製作所

亀山製作所では、エアー供給の負荷バランスからエアー需要の少ない時間帯にインバータ機がメインで作動するように運転制御の見直しを行い、年間最大10,000kWhの削減につながりました。

※インバータ…直流電力を交流電力に変換し、圧縮機を動かすモーターの回転数を高精度にコントロールすること



#### ● 外気吸入による空気圧縮効率の改善 郡山製作所

郡山製作所では、コンプレッサの吸込みを屋内から屋外に変更することで、吸込み空気の温度を下げ、空気の圧縮効率を向上させ消費電力の削減を図り、CO<sub>2</sub>に換算すると年間3t削減することが出来ました。



## 中国

### ■ 屋根への断熱塗装

W-Hapii社では、屋根(面積:8,000㎡)の修繕時に断熱防水効果のある塗料を使用することで、工場内の温度を一定に保ち、年間4,752kWhの削減につながりました。



修繕エリア(赤線部分)



修繕前



断熱塗装修繕後

## タイ

### ■ エア漏れ特定によるエネルギーロスの改善

HPT社では、生産ラインでのエア漏れが数多く発見されており、エネルギーロスが発生していました。そこで社内に対策チームを作り、エア漏れ150カ所を特定し修理を行い、年間約42,170kWhの削減につながりました。また、エア漏れに関して修復前と修復後をデータ化し、今後のメンテナンスに役立てています。



対策チーム打ち合わせ



エア漏れに関するデータ化

## 各国

### ■ LED化の推進

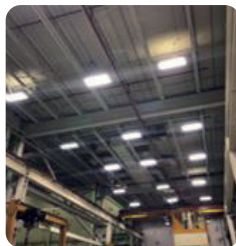
海外拠点では、生産エリアだけではなく、事務所エリアも含めて各拠点でLED化を進めており、従来に比べると約30~50%の照明の電力が削減されています。

#### ●工場内のLED化事例

変更前



変更後



変更前

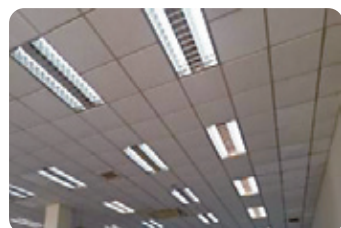


変更後

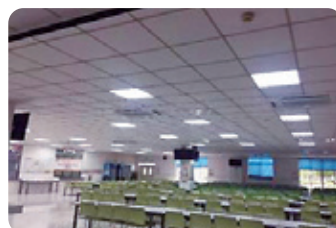


#### ●事務所エリアのLED化事例

変更前



変更後





当社は各拠点で地域との交流を積極的に行い、社会に貢献することを通じて、地域社会から存在を期待されるような企業をめざしています。

## 日本

### ■ H-oneフェスティバル

本イベントは事業所の敷地を開放し、従業員が手作りの催し物を行い、来場者と交流を図る当社の伝統行事です。地域住民の皆さま、お取引先、OB、OG、従業員の家族など、当日はたくさんの方に来場いただきました。

飲食の模擬店やステージショー、抽選会など盛り上がりを見せ、来場した皆さんがそれぞれ楽しいひと時を過ごしました。



### ■ 新型コロナウイルス感染症防止のためのマスク寄贈

新型コロナウイルスの感染防止対策として、会社で備蓄していたマスクを埼玉県社会福祉協議会と埼玉県医師会にそれぞれ10,000枚を寄贈しました。後日、埼玉県知事から寄贈に対するお礼状が届きました。



埼玉県からのお礼状

## アメリカ

### ■ 工場見学会

KLP社では、2019年5月に障がい者の就職支援活動を行っている施設の利用者を招いて会社説明会と工場見学を行いました。



## タイ

### ■ 子供の日の交流

HPT社では、2020年1月にタイの子供の日に合わせて地元の小学生たちにおもちゃとキャンディーを贈り地域との交流を深めました。



### ■ 孤児院への寄付

HPS社では2020年3月に孤児院で暮らす子供たちに生活必需品や食料品などを寄付しました。



## インド

### ■ 衣服や靴の寄付活動

HIL社では、2019年11月に地域の生活に困っている人々へ生活必需品である衣服や服の寄付活動を行いました。従業員は会社内に寄付箱を設置し、教会を通じて寄付品を集めた結果、多くの人々に衣服などを届けることができました。



## インドネシア

### ■ 献血と寄付

HK-PATI社ではインドネシア赤十字社に来社いただき、定期的な献血活動やクルバン(犠牲祭)といった祭りに寄付をするなどの活動に積極的に取り組んでいます。







# 環境報告書2020

〈発行〉 2020年8月

〈発行責任者〉 総務部長 坂井祐司(環境総合責任者)

〈製作・発行所〉

株式会社エイチワン サステナビリティ推進部CSR課

埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目11番地5

TEL:048-643-0010 FAX:048-643-0040